

中国5県絶景の旅②

おおがみやま

「大山・大神山神社奥宮」  
——山の神様が待つ石段

「ここに行ってみよう」、新聞の日曜版の写真を見た瞬間、そう思った。全国の景勝地を紹介する記事なのだが、昨年の9月1日に掲載されたのが大山。一面に大きく、大神山神社奥宮の写真が載っていた。大きな石段の上に、権現造りでは日本最大級の社がある。正直、魅せられたのは石段。

この巨大な石段を踏みしめて参拝したい。

昨年12月16日、月曜日、木次線ストロールで日登駅取材した後で松江市内で一泊。翌朝、9時半過ぎに大山を目指して車で出発した。国道9号線に出て鳥取県の米子市に向かう。一時間弱で県道24号線との交差点に出る。鳥取県道24号米子大山線、米子

市と大山町をつなぐ県道である。広い駐車場にトイレがあったので休憩した。「岡成池（おかなりいけ）」解説板によると室町時代に造られた農業用のため池らしい。しかし、江戸時代の享保11年に堤防が決壊、死者74人、倒壊・流出家屋103軒というから大きな人造湖だ。晴れた日に水面に写る大山の写真が紹介されているが、その日は小雨交じりの曇天で、伯耆富士の勇姿は雲の中。カモの群れが悠然と泳いでいる。

県道24号線を大山に向かって走る。正確には、右前方に大山を見上げながらの運転、実際には山裾

が見えるぐらいだったが、霊山の圧倒的な迫力は体感できた。通称、大山観光道路、1963年開通当初は鳥取県初の有料道路だった。1981年に県道となり無料開放された。信号はなく、高原の広大な林の中を走っている感じ。北海道を車で旅行したときの爽快感を思い出した。

日本海に面した米子市から、標高743メートルの大山町の駐車場まで一気に登る。路傍に雪がちらほら見え始めて、それが雪道に変わった。大山寺参道の入り口にある駐車場は雪景色で、厚く積もった雪でタイヤが空回りしてしまい、4WD（4輪駆動）に切り替えることで脱出できた。もしかしたらと用心で持参したトレッキングシューズと厚手の手袋が役に立った。岡成池から15分、時刻は午前11時を少し過ぎていた。

雪の坂道を登った。廃業して朽ちた建物が散在、雨樋が壊れているので巨大なツララが垂れ下がっている。腰痛で手にした杖が、写真を撮るときにいつもは邪魔になるのだが、積雪に杖を突き立てることで両手を自由に使うことができた。冬場の平日なので、人通りはまばら。

大山寺郵便局の先の道を右折して夏山登山口に向かうと、「蓮淨院跡」がある。かつて大山寺には多くの宿坊があり、蓮淨院もその



雪の石段を踏みしめて参拝する



大神山神社奥宮の拝殿の内部



発行：どら書房  
〒727-0012  
庄原市中本町 2-1-10

誌面デザイン: ROUTE183  
協賛：九日市愛好会